



コンソーシアムという試み

関東職業能力開発大学校 校長 太田 正 廣

栃木県内高等教育機関のネットワーク
大学コンソーシアムとちぎが発足して
十年目を迎えている。コンソーシアムとい
う試みと題してこれまで多くの先生方
がその卓越した識見を述べてこられた。
本稿では少々視点を変えた提案をさせ
ていただきたい。

コンソーシアムに所属する高等教育機
関が共同で参画できる機会として、学生
&企業研究発表会、とちぎ学、連携講
座、とちぎグローバル人材育成プログラ
ムなどが実施されつつある。関東職業能力
開発大学校(以下、略して関東能開大)
は、厚労省所管の法人に属しており、工

専門分野の十名程度の学生がグループを
形成し二年間かけて製品開発に立ち向か
い、これまでに学校として十年以上の経
験を積み重ねた。

そこで、製品コンセプトの議論から始ま
り、経営・企画を担当する大学等、科学
技術基礎理論を担当する大学等、そし
て製品開発を担当する関東能開大等が
ミニコンソーシアムを組み、複数大学で製
品開発に挑戦してはいかげでしょうか。い
わば、企業からの助言もいただきながら、
開発課題における民間企業の役割をミニ
コンソーシアムが負うことになる。自分ら
が企画して製品が具体的な製品に仕上
がつてゆく経験を、異なる大学に所属す
る学生達が幅広い経験を学生時代にと
り組むことになる。

大学コンソーシアムとちぎにおける
楽しい夢を述べさせていただいた。まだ構
想段階なので、はた
して実施する価値
があるか否を含め、
複数年の準備期間
も必要であり、意
見をいただけたら
光栄です。



業系実践技術者育成を目指
して実験実習科目に多くの
時間を割いているため窮屈な
カリキュラム構成となり、年
間を通しての休暇期間が他
高等教育機関に比べて少な
く、コンソーシアム行事参加が
活発になりにくい状況です。
機械系、電気系、電子情報
系、建築系の四分野から成
り立つ関東能開大の教育プ
ログラムはものづくりの特
化しており、開発課題(卒業
研究に相当)と称して最終
年次学生が企業提案の製品
開発をしている。この開発課
題は、主として民間企業から
開発すべき製品のヒントをい
ただき、多くの課題に異なる



大学コンソーシアムとちぎ

平成24年度に採択された学生支援事業は以下の5事業でした。

学生活動支援事業

事業名

街角観望会

機関 名 帝京大学宇都宮キャンパス

団体等名 天文部

学生代表者 玉井 智久

帝京大学理工学部

航空宇宙工学科3年

責任教職員 帝京大学理工学部

航空宇宙工学科教授

支援金額 70,000円

実施時期 平成24年4月1日(土)～

平成25年3月31日(日)

実施場所 JR宇都宮駅前など

《事業概要》

街角観望会とは、駅前等で望遠鏡を展開し、一般の方々に覗いてもらい星空観測を体験してもらう会です。その際、スタッフは天文部員が行う。観望会では月、火星や木星の惑星等を観測の対象としている。

《具体的な事業内容》

JR宇都宮駅前にて、観望会を4月28日と8月3日と2月16日に行った。

《事業の成果》

小学生くらいの子どもから高齢の方まで幅広い方々に星に触れ合っていた。今まで望遠鏡で星を見たことがない方にも見ていただき、非常に感動して立ち去る方が多かった。また、望遠鏡を覗かなかった方も何が見えるのかと空を見上げる方も多かった。



事業名 第7回

栃木県学生剣道大会

機関 名 宇都宮大学、外6機関

団体等名 栃木県学生剣道大会実行委員会

学生代表者 松本 玲佐

宇都宮大学工学部

応用化学科4年

責任教職員 松村 司朗

宇都宮大学教育学部教授

支援金額 100,000円

実施時期 平成24年6月16日(土)

実施場所 宇都宮大学第1体育館

《事業概要》

県内の大学剣道部の学生が実行委員会を組織し、大会内容、運営方法、栃木県剣道連盟との連携など協議しながら、全学生が試合参加に参加するとともに運営に携わりながら、大会を開催した。

《大会内容》

男女団体戦・個人戦をトーナメント方式で行い、個人戦については、段位別の階級を設けた。大会終了後には審判の労をとって頂いた栃木県剣道連盟の方や学生同士の剣を通じての交流の場として合同稽古を設けた。

《事業の成果》

今大会では、100余名の参加者を募ることができ、深刺とした試合が数多く繰り広げられ、熾烈な戦いの中にも爽やかさが感じられる、剣道人の復興への思いを乗せた大会となった。また、各大学の剣道部員全員が試合に参加し、全員が運営に携わるという大会の趣旨が十二分に生かされ、大会を通して大学間の親睦・交流を深めることができ、大変有意義な大会とすることができた。

事業名

まちチョコー宇都宮市オリジナルフェアトレード・チョコレート

機関 名 宇都宮大学

団体等名 KAKEHASHI SEEDS

学生代表者 曾田 翔子

宇都宮大学国際学部

国際社会学科3年

責任教職員 重田 康博

宇都宮大学国際学部教授

支援金額 100,000円

実施時期 平成24年4月15日～

平成25年3月29日

実施場所 宇都宮大学、宇都宮市役所売店、宇都宮市内フェアトレード

商品取り扱い店舗(6店舗)

《事業概要》

本事業は、宇都宮市民にフェアトレードを広め、フェアトレードを身近に感じてもらうことを目的としている。まちチョコは、人々の生活に身近なチョコレートを切り口に「パッケージ公募・店舗販売・チョコレートを手につけてもらう」過程において、市民の方々にフェアトレードに触れてもらうことができる。

《具体的な事業内容》

宇都宮市オリジナルパッケージを作成するため、パッケージテーマを「夢」とし、6月下旬から宇都宮市内の小中学校・高校で、7月下旬から宇都宮大学内でパッケージイラストの公募を行った。大学生協前ではミニイベントを行い、イラスト募集を呼び掛けた。8月に、集まったイラストの中から1枚を選定した。9月には、決定したイラストと企画書等を持ちより、チョコレート販売してくれる店舗への渉外を行った。

大学コンソーシアムとちぎ

学生活動支援事業

学園祭にてチョコレートの販売を開始し、11月下旬から店舗での販売を開始した(1個290円)。各販売店舗には、まちチョコやフェアトレードについて紹介したカード、チラシ、ポップを置かせて頂いた。また、まちチョコの活動を行っている大学のネットワークミーティングに参加し、情報交換なども行った。

《事業の成果》

パッケージイラストの募集では、100枚以上のイラストを集めることができた。図工の先生の協力で、多くの児童がイラストを描いてくれた小学校もある。パッケージに選ばれた児童には、先生を通してオリジナルチョコレートを贈った。まちチョコは242個作成し、宇都宮大学生協、宇都宮市役所売店、フェアトレード商品取り扱い店舗の全8店舗で販売された。



事業名

フェアトレードのチョコレート

機関名 宇都宮大学

団体等名 Fnnnp Jr.

(旧福島乳幼児妊産婦学生ボランティア)

学生代表者 田中 えり

宇都宮大学国際学部

国際社会学科3年

責任教職員 阪本久美子

宇都宮大学国際学部准教授

支援金額 100,000円

実施時期 平成24年12月8日(土)

実施場所 宇都宮大学 栃木県内他

《事業の概要》

Fnnnp Jr.は、姉妹プロジェクトFnnnpなどと共同で、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電事故後の放射能汚染による健康被害の不安を抱える乳幼児や妊産婦を含む家族と、現在福島県から栃木県内に避難中の乳幼児や妊産婦を含む家族を対象に、細やかなサポートを実施してきた。そのうちFnnnp Jr.は、学生主体の企画として交流会を主催し、避難者同士のネットワーク形成に寄与してきた。H24年4月12日栃木県災害対策本部発表の「東北地方太平洋沖地震災害に関する被災地から県内への避難者の状況一覧」によると、栃木県内の避難者数は2750名であり、現在も避難者は困難な状況を強いられている。Fnnnp Jr.は、連携プロジェクトとともに聞き取ってきたニーズに対応する形で、「ファミリーのびのびの会」として交流会を企画した。

《事業の内容等》

Fnnnp Jr.としての学生主体の活動では、妊産婦さんや乳幼児をもつお母さんのストレス解消や孤立を防ぐためのお母さん同士のネットワーク構築、ニーズ聞き取りを目的としたお茶会などの交流会を開催した(計4回)。交流会では、お母さんのみならず、子どもたちも学生とともに思い切り遊ぶことでストレス解消につながっている。なお、相談会についてはFnnnpが担当し、専門家を配置した。

《事業の成果》

昨年度から、継続的に参加してくださる方々が多く見受けられ、本プロジェクトの目的でもある参加者同士の交流・ネットワーク構築や、お母さん、お子さんのストレス解消にもつながり、本プロジェクトが重要な役割を担っていることを再認識した。

第8回

緑を育てるための学生交流会

事業名

機関名 宇都宮大学

団体等名 (SAL)

学生代表者 高宮 達郎

宇都宮大学

農学部1年

責任教職員 藤井佐知子

宇都宮大学教育学部

支援金額 100,000円

実施時期 平成24年12月8日(土)

実施場所 宇都宮大学 峰キャンパス

峰ヶ丘講堂

《事業の内容等》

宇都宮大学峰キャンパスの峰ヶ丘講堂にて、第8回緑を育てるための学生交流会を開催いたしました。

第1部の「学生による、復興ビジネスコンテスト」では宇都宮大学の学生だけではなく他大学の学生も、参加し被災地の復興のためそれぞれのビジネスプランを競い合いました。文部科学省や福島県大熊町の町長にも審査に協力していただき、学生なりのビジネスプランを集めることが出来ました。

第2部の「環境に関する講演」では、NHK宇都宮放送局局長 北出幸一様をはじめ、社団法人栃木県造園建設業協会会長 高梨道太郎様、NPO法人足尾に緑を育てる会理事 石川栄介様をお招きして、環境に関する講演をしていただきました。次代を担う私たち学生に向け熱いメッセージをいただきました。

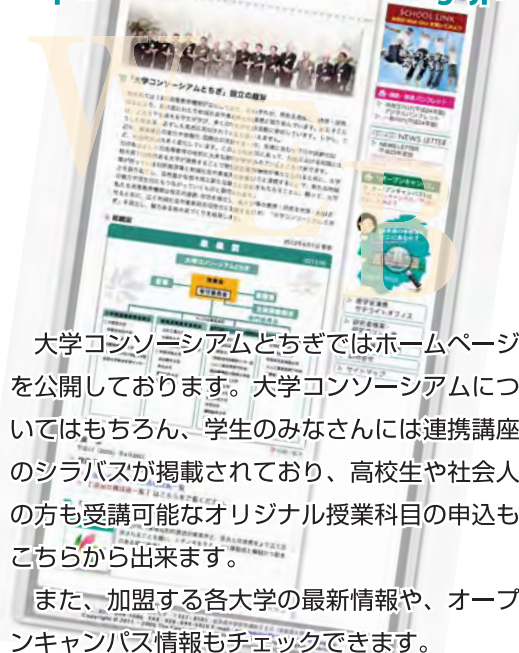
第3部の「親睦会」では、全国から集まった学生が、大学を、県を超えて交流することができました。



大学コンソーシアムとちぎの ホームページが

公開されています。

<http://www.consortium-tochigi.jp/>



大学コンソーシアムとちぎではホームページを公開しております。大学コンソーシアムについてはもちろん、学生のみさんには連携講座のシラバスが掲載されており、高校生や社会人の方も受講可能なオリジナル授業科目の申込みこちらから出来ます。

また、加盟する各大学の最新情報や、オープンキャンパス情報もチェックできます。

大学コンソーシアムとちぎ役員（平成25年4月1日現在）

理事長	進村 武男	宇都宮大学長
副理事長	牛山 泉	足利工業大学長
副理事長	太田 周	作新学院大学長・作新学院大学女子短期大学部学長
理事	谷萩 昌道	足利短期大学長
理事	須賀 英之	宇都宮共和大学長・宇都宮短期大学長
理事	上野 孝子	宇都宮文星短期大学長
理事	苅谷 勇雅	小山工業高等専門学校長
理事	太田 正廣	関東職業能力開発大学校長
理事	中村 幸弘	国際医療福祉大学長
理事	北島 政樹	國學院大學栃木短期大学長
理事	興水 優	佐野短期大学長
理事	永井 良三	自治医科大学長
理事	沖永 佳史	帝京大学長
理事	稲葉 憲之	獨協医科大学長
理事	奥島 孝康	白鷗大学長
理事	上野 憲示	文星芸術大学長
理事	海野 孝	放送大学栃木学習センター所長
理事	関根 房三	栃木県総合政策部 部長
理事	板橋 敏雄	公益社団法人栃木県経済同友会 筆頭代表理事
理事(事務局)	石田 朋靖	宇都宮大学 理事
監事	内野 直忠	学校法人船田教育会 監事
監事	桑名 正史	公益社団法人栃木県経済同友会 専務理事
産学官連携サテライト オフィス事業委員会委員	鈴木 昇	宇都宮大学地域共生研究開発 センター長

編集後記

大学コンソーシアムとちぎの事務局を担当してちょうど1年になります。初めてのことでばかりで、はたして十分なサポートができたのだろうかと思案しているところです。

さて、大学コンソーシアムとちぎは、平成17年4月に発足し、この3月で丸9年を迎えようとしています。これまでの間、様々な取り組みをしてきたところではありますが、大学コンソーシアムとちぎの知名度は、まだ十分ではないと感じています。知名度をあげるためには(もちろん知名度だけでなく実体が伴っていなければなりません)、個々の大学ではなかなか難しい「コンソーシアム」という繋がりを活かした事業を実施することが重要だと思います。幸いにも、来年度から栃木県から補助をいただき、グローバル人材育成事業を開始することになりました。本事業は、まだまだ課題も多く、今後も試行錯誤しながら進めていくことになりそうですが、大学コンソーシアムとちぎを皆様に知っていただくにはとても良い機会です。

大学コンソーシアムとちぎが、皆様に知られ、より発展できるよう、これまで以上にご協力、ご支援をお願いいたします。

事務局担当 佐鋪 政男

大学コンソーシアムとちぎ参加校 50音順

足利工業大学 足利短期大学 宇都宮共和大学 宇都宮短期大学 宇都宮大学
宇都宮文星短期大学 小山工業高等専門学校 関東職業能力開発大学校 國學院大學栃木短期大学 国際医療福祉大学
作新学院大学 作新学院大学女子短期大学部 佐野短期大学 自治医科大学 帝京大学
獨協医科大学 白鷗大学 文星芸術大学 放送大学栃木学習センター